

阿武山観測所サイエンスミュージアム化構想 A project to utilize Abuyama observatory as a science museum

米田 格^{1*}, 城下 英行², 平林 英二³, 矢守 克也¹, 飯尾 能久¹
YONEDA, Itaru^{1*}, Hideyuki Shiroshita², Eiji Hirabayashi³, Katsuya Yamori¹, Yoshihisa Iio¹

¹ 京都大学防災研究所, ² 関西大学社会安全学部, ³ 人と防災未来センター

¹Kyoto University, ²Kansai University, ³Disaster Reduction and Human Renovation Institution

1. はじめに

阿武山観測所は大阪府高槻市にある京都大学防災研究所付属の観測所で、1930年の設立以来今日まで様々な観測が行われ、現在でも防災研究所が中心となって進めている次世代型稠密地震観測計画（満点計画）の基地局として観測を続けている。これまで観測に使用してきた観測機器の中には、ウィーヘルト地震計やガリチン地震計など、地震観測の歴史を語るうえで欠かせないものもあり、どの観測機器も現在でも使用できる形で保存している。

近年、地震や防災への関心が高まりつつある中、この阿武山観測所が持つ観測の歴史と経験を生かし、誰でも地震や地震学を学ぶことができ、また最先端の大学の研究に触れることができるという取り組み、阿武山観測所サイエンスミュージアム化構想を2011年度から始めた。

2. 阿武山オープンラボ

サイエンスミュージアム化にあたり最初の問題点となったのは、観測所は通常、観測・研究を行う場所のため、宣伝活動を行っていないこと、また人を迎える体制になっていないことだった。これらの問題を解消するために阿武山オープンラボを開催し、広報活動と観測所の整備をおこなった。またオープンラボの中で地震学の歴史を題材にしたセミナーや簡易地震計制作プログラム、サイエンスミュージアムを考えるワークショップなどを行い、今後のミュージアム化へのコンテンツ作りも進めた。2011年度は4回のオープンラボを開催することができ、合計で約500名の来所者を迎えることができた。

3. 見学会

阿武山オープンラボとは別に見学会という形で、希望者を対象に観測所に保存している地震計の案内を行っている。この見学会は阿武山オープンラボとは違い、広報活動は行っておらず、ホームページ等から応募する形をとっていた。しかしミュージアム化を進めるなかで、見学がいつでも行える状況作りが必要だということが分かったが、現職員の数では、毎日見学の対応することは難しい状況である。

4. 課題と展望

見学会をいつでも行えるようにするためには、観測所の案内ができるスタッフが必要になってくる。しかし観測機器などの説明を行うためには専門知識が必要で、誰でも案内できるというのは現在の状況では難しい。そのため案内用のマニュアルの作成や展示物の案内板など整備していくことが今後とりくむべき課題である。

さらに先の展望として、現役の観測所であることを生かし、現在の研究にも触れることができるミュージアム、さらには研究に参加できるブースも用意し、最新の研究活動と防災教育とが共存するサイエンスミュージアムを目指していきたい。

キーワード: 阿武山観測所, サイエンスミュージアム, 地震, 満点計画, 防災教育

Keywords: Abuyama observatory, science museum, earthquakes, MANTEN project, Disaster prevention education